

平成 29 年 1 月 30 日

日刊工業新聞 掲載記事

人生の参考になる『ローマ人の物語』

経営に歴史観は不可欠

中学生の頃から毎月1冊は本を読むようにしている。社会人になってからはビジネス書や経済関連の本も読むようになったが、昔から歴史の本が好きだ。

歴史好きが高じて高校生の時は、日本史と世界史が模試で全国トップレベルだった。特に好きなのは近代史。古代などはあまりに昔だと自分の体験として実感し難い。明治ぐらいだと何となく感覚が分かる。関連すれば小説も専門書も読む。

そんなわけで、司馬遼太郎の著作はかなり読んでいた。高杉晋作と吉田松陰が主人公の『世に棲む日』は3回くらい読んでいた。長州藩は小さいのに周りを巻き込み、日本を変革した。そういう力



のすばさを感じる。気に入った本はけっころ再読する。寝る前に読み返すことが多い。覚えられているものだと3、4年前に何度か読んだ『ザ・ゴール』企業の究極の目的とは何か(エリヤフ・ゴールドラット著)か。父親の経営していた櫻製作所(大阪市淀川区)を社長として継ぐ時期だったので印象に残っている。この本自体が経営危機の工場を立て直す話。当社は経営危機ではなかったが、これからの時代にどうがし取りをしていけば良いか、参考になったと思う。

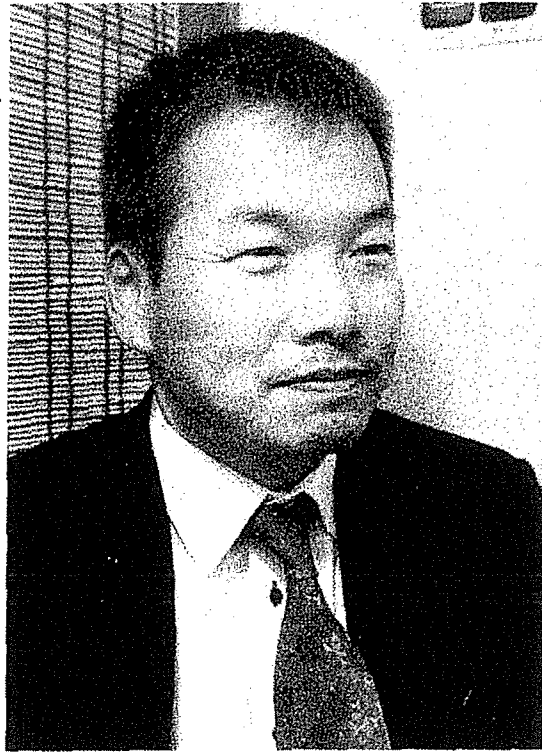
苦労して読んだ記憶があるのは『ローマ人の物語』(塩野七生著)。国の存亡とはけたが違つかも知れないが、経営に通じるところがある。余滴………

前職の商社マン時代に地方転勤してから、取引先や出張先の歴史を書籍などで調べることにしている。日本はどの県にもしっかりと歴史がある。話のネタにもなるし、自らの教養にもなる。堅い本に飽きたら、気分転換の本でも読めば良い。星新一や井上ひさしの本は昔からよく読み返す。

じるものがある。違う言い方をすれば、経営に歴史観は不可欠な要素だと確信している。若い人にも薦めたい本だ。歴史は繰り返すというが、歴史ほど人生の参考になるものはない。歴史の主人公がどう判断したかだけでなく、その家臣たちがどう状況を捉え、判断したかも自らの参考になるはずだ。

井上社長は国内だけでなく、海外でも関わり合っている。歴史を学ぶ。櫻製作所のグループは昨年、スリランカで環境関連の企業を立ち上げた。

既に3冊のスリランカ史と経済関連の本を読破したという。昔からのお酒好きと日々の多忙さで読書を続けるのは大変そうだが、移動時間や就寝前の時間で何とかやりくりしている。(石橋弘彰)



櫻製作所社長 井上 正基氏

何とかやりくり

井上社長は国内だけでなく、海外でも関わり合っている。歴史を学ぶ。櫻製作所のグループは昨年、スリランカで環境関連の企業を立ち上げた。